

令和3年 春季号

仙台市

農業委員会だより

編集と発行 仙台市農業委員会
 仙台市青葉区国分町三丁目7番1号
 TEL 022(214)4308(直通)
 FAX 022(215)5803

発行日 令和3年5月1日

ホームページ <https://www.city.sendai.jp/shinko/jigyosha/kezai/norin/nogyo/sendaiishi/index.html>



令和2年度第2回農地利用最適化推進委員連絡会

農地利用最適化推進委員連絡会を開催しました

2月15日(月)に農地利用最適化推進委員連絡会を開催しました。連絡会では推進委員が集まり、農業委員会業務に必要な知識の習得と相互研さんを行っています。

今回は、各区域における農地利用最適化推進活動について、推進委員の主な活動内容や特に重点を置いて取り組んだ活動、今後重点的に取り組むべき問題等について事例を挙げながら代表者が発表を行いました。具体的には、農家からの相談窓口を設置したことや、戸別訪問により収集した情報に基づきマッチング活動を行った結果、3件の売買が成立したこと等の報告がありました。

また、農地を取得する際の「下限面積」を4月から引き下げることにについて、事務局から説明を受けました(詳しくは3ページをご覧ください)。

推進委員は農業委員と連携し、今後とも農地等の利用の最適化の推進に向けた地域活動を行ってまいりますので、農業を営む上で相談したいことがありましたら、お近くの農業委員・推進委員にご連絡ください。

(編集委員 小野寺 潔)

令和3年度仙台市農業委員会業務計画

3月29日(月)に第34回総会を開催し、次のとおり令和3年度業務計画を決定しました。

I 業務方針

我が国の農業・農村は、農業者の高齢化・担い手不足、鳥獣被害の拡大や農業所得の大幅な減少等により、農山村の活力の低下など厳しい状況が続いている。また、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、国内の経済活動は大きな打撃を受け、農畜産物の消費減少や価格低迷に拍車をかけている。

加えて、農産物等の国内生産・消費に大きな影響を及ぼす「環太平洋パートナーシップ(TPP)協定」や、日EUの経済連携協定(EPA)の発効・日米貿易交渉の合意など農業を取り巻く新たな国際環境の下で、我が国の農林水産業の体質強化を図っていかねばならない状況である。

このような中、本農業委員会では農業委員と農地利用最適化推進委員が両輪となり、今まで以上に

本市農業の健全な発展に寄与するため、農地利用の最適化を確実に推進することがますます重要となつていく。その役割と責任を十分に果たすよう、農地法等の許認可審査をはじめ、農業者の皆様と連携を図りながら、「農地等の利用の最適化の推進に関する指針」を基に、実効性のある地域活動等を推進するものである。

具体的には、第一に「担い手への農地利用の集積・集約化」、第二に「遊休農地の発生防止・解消」、第三に「新規参入の促進」の3つの目標を掲げ、担い手となる認定農業者や生産組織等を育成し、農地の利用集積・集約をすることもに、農地パトロールによる遊休農地の調査と指導・違反転用農地の是正指導、更に農外からの新規就農の促進などを行い、地域農業の持続的な発展に資するよう取り組んでいく。

さらに、宮城県農地中間管理機構やJA仙台と連携し、農地の集約化等によって生産コスト等を削減し、農業所得の安定・向上に取

り組むとともに、人・農地プランの実質化の実践に向け、地域の話し合い活動に参画し、積極的な役割を果たしていく。

農業委員及び農地利用最適化推進委員が一致団結し、着実な取り組みとその成果を上げるため、盤石な体制で業務を遂行していく。

II 活動計画(抜粋)

1 農地行政活動

- ・農地法その他の法令によりその権限に属する事項の審議
- ・農地等の利用の最適化の推進に関する指針の実行及び更新
- ・農地等利用最適化推進施策の改善意見の集約等
- ・担い手への農地の利用集積・集約
- ・農地移動適正化あつせん事業
- ・遊休農地の調査と指導
- ・新規参入の促進
- ・農地の違反転用防止対策

2 農業振興活動

- ・地域振興活動の推進
- ・農業者年金の加入促進
- ・農業委員及び農地利用最適化推進委員の研修

農地法第3条の許可実績

令和2年11月から令和3年2月までの農地法第3条(売買・貸借等)の許可実績は次のとおりです。

区	月	11月		12月		1月		2月		計	
		件数	面積(m ²)	件数	面積(m ²)	件数	面積(m ²)	件数	面積(m ²)	件数	面積(m ²)
青葉		1	906	2	2,477	3	14,204			6	17,587
宮城野		4	5,032	1	855	2	7,281	2	5,258	9	18,426
若林		6	28,734					3	21,485	9	50,219
太白		3	4,902	8	23,538	1	10,685	2	2,368	14	41,493
泉		2	169	8	22,365	1	4,213	1	13,306	12	40,053
計		16	39,743	19	49,235	7	36,383	8	42,417	50	167,778

4月から、農地の権利取得に係る下限面積を30アールに引き下げました

耕作目的で農地の売買や賃貸借等を行う場合、農地法第3条の規定により市町村の農業委員会の許可を得る必要があります。許可にあたってはいくつかの要件があり、そのうちのひとつとして経営農地面積を一定以上とする「下限面積要件」があります。

これまで仙台市においては下限面積を50アールと定めておりましたが、今年の4月から市内全域において下限面積を30アールに引き下げました。

今回の引き下げにより、新規就農者が農地の権利取得をしやすくなることに加え、小規模経営の農家においても経営規模の拡大が図りやすくなります。

問い合わせ先 事務課農地係
電話 214-4340

地域振興委員会を開催
～これからのマッチング活動に向けて～

2月9日(火)から10日(水)にかけて、「青葉・泉」「宮城野・若林」「太白」の三つのブロックに分かれ、農業

委員、農地利用最適化推進委員が参加して地域振興委員会を開催しました。

今回のテーマは、「経営意向調査に基づく農地の賃貸借等のマッチング活動」。

マッチング

活動は、「農業をやめたい・規模縮小したい」という意向を示した約1,100戸の農家を対象に、昨年8月から今年2月にかけて戸別訪問を実施。農家の考えをより深く、具体的に伺ったほか、状況に応じて農地の賃貸借の手続きや売買あっせん事業等の紹介、担い手への結び付けなどの活動を行いました。

地域振興委員会では、次の四つの視点でマッチング活動を振り返り意見交換しました。

【活動の感想】

・農家の声を直接聞くことができ、現状把握ができた。



太白ブロック

【困った点】
・家族内に農業を継ぐ者がいないため、農家は不安を抱えていた。

・貸したい農地は、未整理地、遊休農地など条件の悪いところが多く、借り手を見つけるのが難しかった。

・売りたいという希望には、応えてあげられなかった。

・勤め人や地域外在住者が多く、訪問してもなかなか会うことができなかった。

【成果が上がった点】

・中間管理事業などの貸し借りや売買を成立することができた。

・農地の貸し借りの制度を説明し、理解していただいた。

【今後の改善点や提案など】

・担い手が借りやすくするため、ほ場の条件を良くするよう働きかけを行う。

・集落単位で懇談会等を開催し、地域で今後の将来を見据えていく必要がある。

・JA仙台や行政機関との更なる連携や、地域のリーダーへの協力依頼が大事である。

各ブロックでは、終始活発な議論が行われ、今後も農地の担い手

へのマッチング活動を継続することを再確認する場となりました。



宮城野・若林
ブロック



青葉・泉
ブロック

農業者年金を受給している皆さまへ
～現況届を提出してください～

(独)農業者年金基金から5月下旬に「現況届」の用紙が郵送されます。6月1日(火)から30日(水)までに最寄りのJA仙台各支店または農業委員会に、持参もしくは郵送で提出をお願いします。

問い合わせ先 事務課振興係
電話 214-4353

新規就農者をご紹介

あなたの出番です

株仙台あぐりる農園代表の
 おぐら まき
小倉 真紀 さん
 にお話しを伺いました。



青々としたリーフレタスを収穫

Q 農家のお生まれですか？

A 父は公務員、母は看護師です。新潟で生まれ育ち、大学入学を機に仙台に来ました。

Q 農業に従事するきっかけは？

A もともと食に興味がありまして。大学生のときにボランティアで、初めて農作業をしたのがきっかけです。いただいた野菜がとてもおいしくて感動しまし

た。

また、地域の農家との交流から、農業をカッコいいと感じました。担い手不足などの現状を聞き、ぜひ未来に継承していきたいと思いました。

Q 農業の魅力は？

A 自分が作った野菜を、誰かが食べてくれることにやりがいを感じました。

Q 好きなことは何ですか？

A 食えることです。特に、畑で採れた野菜は格別においしいです。

Q 現在の夢は？

A 私も地域の方々に助けられたので、若い人が、新たに農業に踏み込めるような場所づくりをしていきたいです。

(聞き手：編集委員 高山 真里子)

区域活動報告

(太白区中田区域)

太白区中田区域では、月2回、農業委員2名、農地利用最適化推進委員2名で区域活動を行っています。

月初めの活動は、JA仙台中田支店の小会議室を借り、委員各自



水害によって砂利で埋まった河川敷の農地

が考えていることや気にかかることを話し合い、時にはJA仙台中中央営農センターの地区担当者にも加わってもらい、地域の課題をまとめ、農地パトロールに生かしています。

中田区域は、名取川河川敷に多くの畑があり、区域の南側の名取市との市境に水田があるのが特徴です。そのため、名取市と隣接するほ場をどのように集積していくか、また、高齢化の進む中でいかに農地を維持していくかを地域で話し合っていることがこれからの区域活動の課題になっています。

(編集委員 鈴木 通)

編集後記

このたび、「仙台市農業委員会だより」が、令和2年度農業委員会だよりコンクールで県の優秀賞を受賞しました。

今後も、農業委員会だよりを通じ、農業委員・農地利用最適化推進委員が互いに協力し、農地利用状況等の情報を皆様にお届けできるよう努力してまいります。

(公報編集チーム

副チーム長 佐藤 とみ)



農業委員会事務局 案内図

※駐車の際は、市役所本庁舎の来庁者用駐車場をご利用ください。
 電話 214-4308

農業委員会事務局 青葉区二日町6-12 MSビル二日町6F

北日本銀行 二日町支店
 七十七銀行 二日町支店
 MSビル
 鹿島建設 東北支社
 日産レンタカー
 仙台市役所
 仙台ビジネスホテル
 青葉区役所
 宮城県庁
 勾当台公園駅